続日本 100 名城

国指定史跡　諏訪原城跡

指定年月日　昭和 50 年 11 月 25 日
追加指定　平成 14 年 12 月 19 日

諏訪原城は、武田勝頼・徳川家康時代の堀、丸馬出が良好な形で現存し、戦国時代史の過程を理解する上で見逃すことのできない重要な遺跡として国の史跡に指定されています。

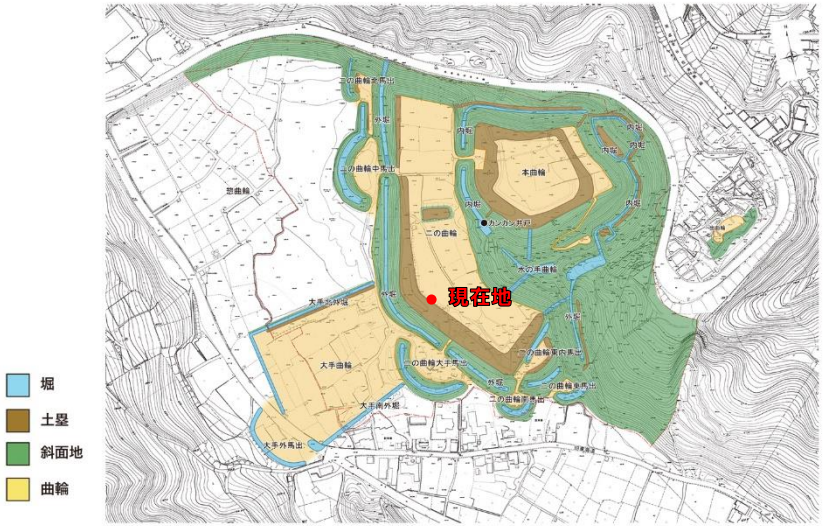
当城は、天正元年（1573）、武田勝頼が、東海道沿いの牧之原台地上に普請奉行馬場美濃守信房(信春)、その補佐を武田信豊に命じ築いたと『甲陽軍鑑』等に記されています。城内に諏訪大明神を祀ったことから、『諏訪原城』の名がついたと言われています。諏訪原城は、大井川を境として、駿河から遠江に入る交通・軍事上で重要な場所にあり、当時徳川方だった高天神城（静岡県掛川市）攻略のための陣城（攻めの城）として、攻略後は兵站基地（軍事作戦に必要な物資や人員の移動を支援する城）としての役割を担いました。

天正 3 年（1575）に、徳川家康によって攻め落とされたのち、『牧野城(牧野原城)』と改名され、武田方となった高天神城を攻略するための城として活用されました。牧野城には、今川氏真や松平家忠らが在城し、『家忠日記』には、堀普請（堀を造る土木工事）や塀普請などの度重なる改修が行われたことが記されています。

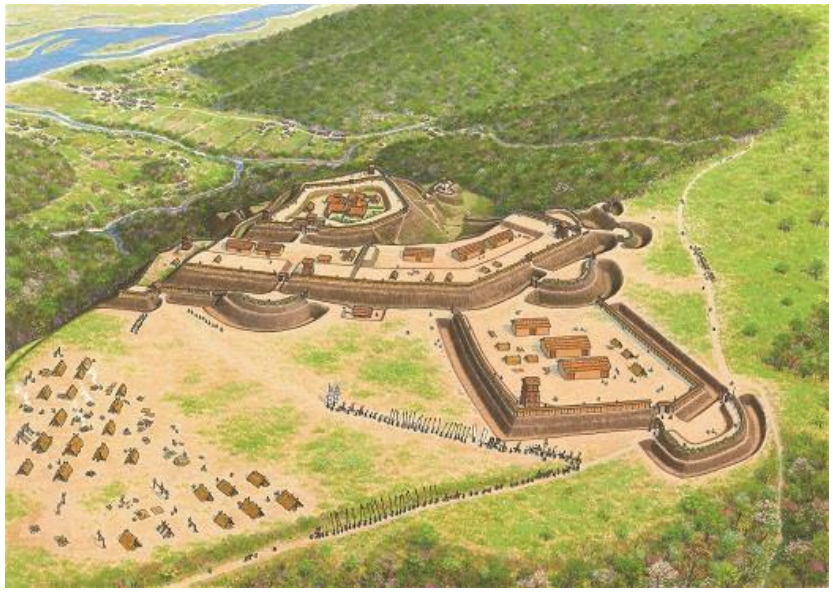
天正 9 年（1581）に、高天神城が落城し、翌年、武田氏が滅亡するとこの城の必要性は無くなりました。その後、徳川家康が関東に移ったことから、天正 18 年（1590）頃廃城になったと考えられています。

令和 4 年　島田市教育委員会

ロータリークラブの標語



諏訪原城地形図



牧野城時代の姿

監修　加藤理文
作画　香川元太郎